

オリンピック讃歌斉唱への思い

【英: Olympic Anthem、作詞コステイス・パロマ (K.Palamas)、作曲スピロ・サマラ (S.Samaras)】

訳詩：野上彰、オーケストラ用採譜・編曲：古関裕而

「オリンピック讃歌」は、オリンピック夏季および冬季競技大会の開会式、閉会式等の式典や、国際オリンピック委員会総会（以下、IOC 総会）などで演奏される公式アンセムです。

1896年4月6日に開催の第1回オリンピック競技大会(アテネ)の開会式において、このオリンピック讃歌は初めて演奏され、歌われましたが、非常に残念なことにこの大会を最後に、楽譜が喪失してしまい以後60年以上一度も歌われることがありませんでした。

しかし、1958年に東京で開催された第55次IOC総会を前に、喪失したと見られていたこの曲の楽譜がギリシャIOC委員より、ギリシャで発見されたことが、その総会のホスト役のIOC委員であった東龍太郎氏（元東京都知事）に知らされるとともに楽譜も届けられました。

ところが、発見された楽譜はピアノ用（作曲者サマラ自身が編曲したもの）のものでした。そのため日本オリンピック委員会は、日本放送協会を通じて高校野球テーマソング「栄冠は君に輝く」を手掛けたことで知られる作曲家の古関裕而（こせきゆうじ/1909-1989）氏に依頼し、オーケストラ用に採譜・編曲してもらっています。

そして、1958年5月に東京で開かれた第55次IOC総会の開会式で、アベリー・ブランドページ会長（当時）以下、各国のIOC委員並びに関係者臨席のもと、日本のNHK交響楽団が、この古関氏編曲の「オリンピック讃歌」を演奏、披露しました。

IOCは日本の善意と曲の素晴らしさに感激し、以後この曲を公式に「オリンピック讃歌」として認定いたしました。なお、日本で開催のオリンピック競技大会では、古関裕而編曲、野上彰訳詞による「オリンピック讃歌」が合唱団にて歌われています。

本学では、オリンピックムーブメントを主導的に推進し、スポーツの「力」を基軸に、国際平和の実現に寄与することを大学のミッション（社会的使命）と考えております。2020年にオリンピックおよびパラリンピックを東京に招致する活動が始まった今、オリンピックスポーツを通して国際社会の友好親善の使者となりうる人材を養成する本学から、この平和讃歌たる「オリンピック讃歌」を再び世界に発信したいと思っております。

なお、現在「オリンピック讃歌」の吹奏楽編曲版は自衛隊中央音楽隊によって保管されていますが、自衛隊中央音楽隊にご助言をいただき、古関裕而氏の音楽著作権代表者であるご子息の古関正裕様に演奏の許可をお願いしたところ、本壮行会での演奏の趣旨にご賛同いただき、本学ブラスバンド部が演奏することについて、ご快諾をいただいております。

本日の演奏を機会に、本学は古関裕而氏編曲の「オリンピック讃歌」が、日本のオリンピックムーブメントを推進するための「象徴」となり、世界平和の一助となっていくことを強く願って、学生たちに斉唱してもらうことといたしました。

日本体育大学
平成24年7月9日